

京都芸術大学
社会実装プロジェクト

松尾スズキ
登壇の
アフター
トークあり

マシーン日記

公開稽古へご招待

松尾スズキ リアルワーク プロジェクト

◎本事業は、京都市ふるさと納税寄付金を活用して実施しています。

日時

8月

金 21日
14:00~

土 22日
15:00~

日 23日
13:00~

会場

京都芸術劇場 studio21
京都芸術大学 智勇館1F
(ともに京都芸術大学内)

会場アクセスなど詳細は裏面をご覧ください

松尾スズキ

作家、演出家、俳優。1988年大人計画を旗揚げ。97年「ファンキー!〜宇宙は見える所までしかない〜」で第41回岸田國士戯曲賞受賞。08年映画「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」で第31回日本アカデミー賞最優秀脚本賞受賞。小説「クワイエットルームにようこそ」「老人賭博」「もう『はい』としか言えない」は芥川賞候補に、主演したテレビドラマ「ちかえもん」は第71回文化庁芸術祭優秀賞ほか受賞。25年「クワイエットルームにようこそThe Musical」「アンサンブルデイズ—彼らにも名前はある—」で第51回菊田一夫演劇賞受賞。19年には正式部員は自身一人という「東京成人演劇部」を立ち上げ、「命、ギガ長ス」を上演、同作で第71回読売文学賞戯曲・シナリオ賞を受賞。23年より京都芸術大学舞台芸術研究センター教授、26年よりBunkamuraシアターコクーン顧問演出家、およびコクーンアクターズスタジオ学長、九州産業大学芸術学部客員教授を務める。



「命、ギガ長ス」
(2023年度)

誰もが興奮するはず。演劇が大好きな方も、ちよと舞台裏を覗いてみたい方も、どうぞお気軽にお申し込みください。

演劇表現が
立ち上がる瞬間に
立ち合いませんか？

大人計画主宰・松尾スズキ教授が、京都芸術大学の学生たちと演出について学ぶ社会実装授業「松尾スズキリアルワークプロジェクト」を今年も開催！4年目となる2026年は、『マシーン日記』を題材に、松尾教授が4名の俳優を目の前でリアルに演出していく過程を通じ、演劇の核心へと迫ります。

そんな演劇表現が立ち上がる瞬間に、京都市在住の方、京都市に通勤・通学されている方をご招待します！

第一線のクリエイションの現場は、一歩足を踏み入れれば、誰もが興奮するはず。演劇が大好きな方も、ちよと舞台裏を覗いてみたい方も、どうぞお気軽にお申し込みください。

お申込み方法など詳細は裏面へ

「ない」(2024年度)



作品解説

マシーン日記

(初演／1996年)：町工場で繰り広げられる、不条理なラブストーリー。壊れた機械を直さずにいられない弟、彼を監禁する兄、その妻、そして「マシーンになる」と宣言する元教師。四人が織りなす泥沼の愛憎劇は、笑いを巻き起こしながら悪夢のような純愛ヘリズミカルに疾走する。性愛と暴力を軸に描いた松尾スズキの代表作。一度足を踏み入れたら抜け出せない、濃密な演劇体験を。

開催日時・会場

8月 21 日(金) 14:00～ 京都芸術劇場 studio21
22 日(土) 15:00～ 京都芸術大学 智勇館1F
23 日(日) 13:00～ 京都芸術大学 智勇館1F

※21日(金)は会場が異なりますのでご注意ください。 ※全日開始時間が異なりますのでご注意ください。

アフタートーク

登壇者

21日 松尾スズキ、和久田頼男

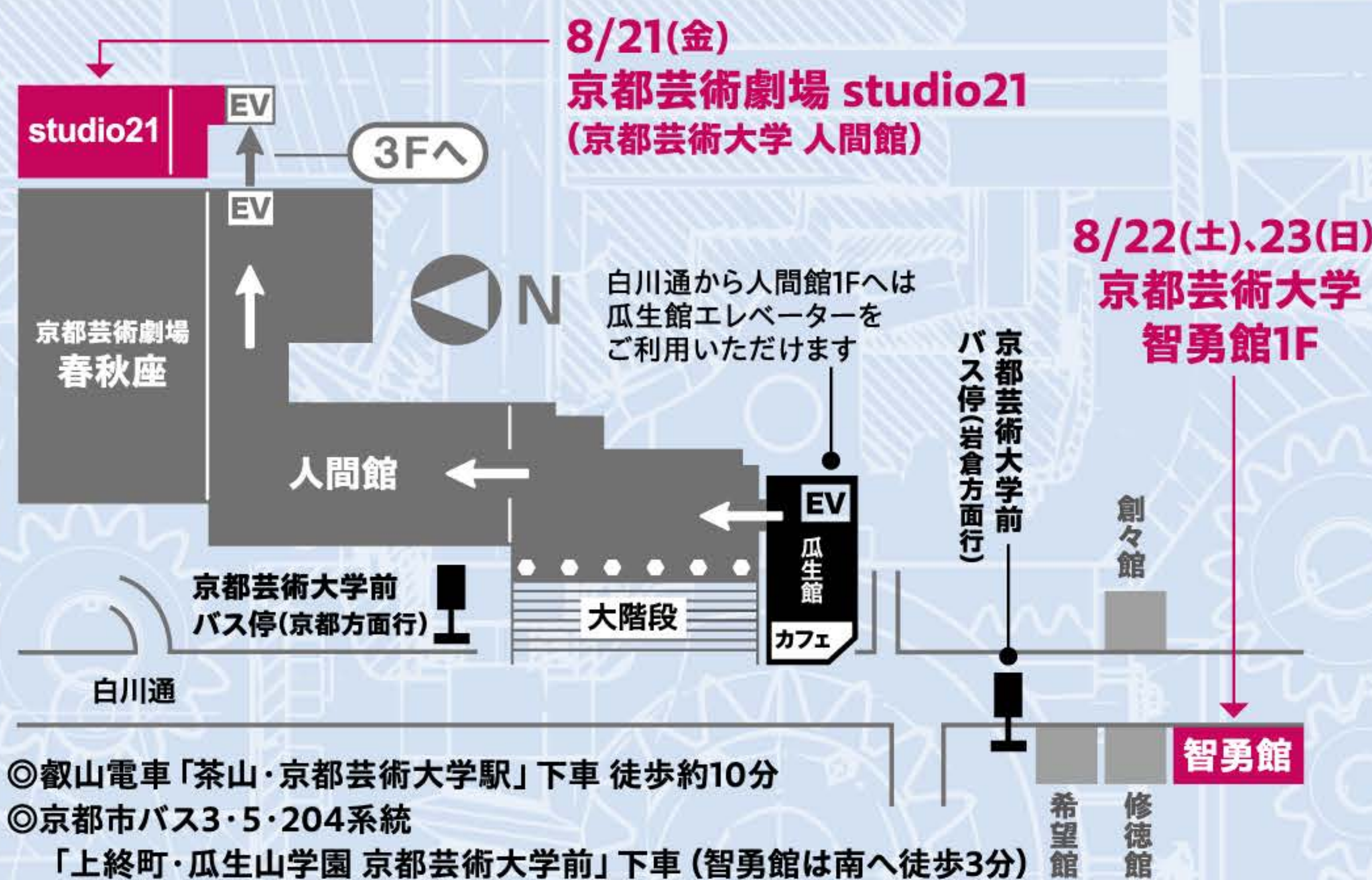
登壇者

22日 松尾スズキ、丹羽健介

和久田頼男(わくた・としお):1968年生まれ。早稲田大学第一文学部仏文学科卒業。白水社の編集者として、演劇雑誌編集長・文庫クセジュ編集長を歴任し、岸田國士戯曲賞事務局を務める。松尾スズキ作品の戯曲単行本のほか、近年編集を手がけた書籍に蓮見翔『ロマンス』など。

丹羽健介(にわ・けんすけ):1971年、東京都生まれ。東京大学フランス文学科卒業後、94年に文藝春秋入社。2019年7月～23年6月まで「文藝春秋」編集長。現在、文藝出版局第一文芸部部長。松尾スズキ最新エッセイ『物件漂流記』(文藝春秋)8月20日発売。

会場アクセス



お申込み

右の二次元コードより
お申込みください。

※定員に達し次第募集は終了いたします



京都芸術劇場 studio21(京都芸術大学 人間館)

〒606-8252 京都府京都市左京区北白川瓜生山町 2-116

京都芸術大学 智勇館

〒606-8252 京都府京都市左京区北白川上終町 1

※当日、急な変更等が生じた場合は、京都芸術劇場のホームページにてお知らせいたします